

<今回>330回目 2023年6月12(月)14時~17時 601会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読朝日文庫 p456、珠玉の説話「堤上」より

<前回>329回目(23-5-29)出席者7名

資料1) (~~2-3-1~~) 前回(23-5-29)のまとめ(清水)

A 報告 九州年号の中で法興年号、白鳳年号は異常に長い。という疑問が出され、議論が続いた。「法興年号の32年」は法隆寺本尊釈迦三尊像の光背銘に刻まれている金石文にある。四国の温湯碑に法興6年と刻まれていたという風土記に記録がある(現物は残っていない)というので、法興という年号の存在は疑われていない。亡くなった上宮法皇を隋書の多利思北弧になぞらえているが、確証はない。通説に対抗するにはパンチ不足だ。「白鳳年号」は前回関西の正木氏が多元の会定例会にリモート講師として講演された資料に白鳳年号はなぜ長かったかという一文があったので紹介したが、①サチヤマが返されたのは筑紫都督府の長官として大宰府に唐の羈縻政策として返された。②半島では勝利者の新羅にも鶏林大都督府がおかれ、唐の真意を悟った唐羅戦争がはじまり、一進一退、最終的には唐は引き揚げた。③大宰府付近にいた郭務棕もひきあげた。の3つには納得いったが4つ目の理由④直後の壬申の乱(672年)は天武の勝利、都督府長官のサチヤマ配下の最大の豪族となって畿内地方を統治した天武と一体になり、天武の死とともに消滅した。唐の監視下にあったので、白鳳年号の変更は出来なかった。この④以下は正木氏の独自論で理解しがたい。ただ白鳳は白鳳時代という美術史家たちの時代設定(明治以来)に使われている。その経緯も知りたい。

が

C 読書 p454 朝鮮側から見た「倭と日本」から

(1) 三国史記に天智王十年(670年天智九年)倭国更えて日本と号す。自ら言う「日出る所に近し」。

中国の史書「冊府元龜」に「倭国」の出現する最後の年は咸亨元年(670)だが、中国側では長安2年(702年)大宝2年にいたって始めて日本国の称を採用している。新羅側の視点では倭国一日本国の移行は30年先行している。(地政学視点の影響を言う)

(2) ①倭国(九州王朝)から日本国(近畿天皇家)への権力中心の移行は670年②日本書紀内の百濟本記や融天師彗星歌の示す「日本」は九州王朝の創始した自称だ。旧唐書の記事と一致する。

(3) 朝鮮半島南部と九州王朝の歴史的関係を裏書きする中国側の史料を追記する。

A 百濟、其の人雜わりて新羅高麗倭等あり、中国人有(隋書百濟伝)

B 百濟、麟徳2年(665)、8月其の盟文に曰く「往昔、百濟先王逆順に惑い高麗と結託し、倭国に交通し、共に残暴を為し新羅を侵略す(旧唐書、百濟国扶余隆の盟文)2

(4) 隋書の「倭」表記は九州王朝に対して用いられ、近畿天皇家の表記は倭と区別している。

(5) B については旧唐書では九州王朝を倭と表記し、近畿の日本と区別している。その倭(九州王朝)と昔から代々の百濟王は手を結んで新羅を侵し続けた。滅亡後唐の仲介で新羅と熊津都督に任じられた百濟の扶余隆との血盟文の一部である。

6月26日(月) 14時から17時 602会議室

7月10日(月) 14時から17時 602会議室

7月24日(月) 14時から17時 602会議室